



【全国調査】オンラインで広がる希望、不登校支援に教育メタバースが注目 - 保護者の9割が『家族以外のつながり』を重視

不登校児童生徒数が過去最多を更新する中、富士ソフト株式会社（代表取締役 社長執行役員 室岡 光浩）と株式会社 NEXER（代表取締役 宮田 裕也）が2025年9月に共同で実施した全国調査で、保護者の9割以上が『家族以外とのつながりは不登校の子どもにとって大切』と回答しました。さらに半数以上が『オンラインで同じ境遇の子ども同士がつながれる場』に肯定的。孤独感の軽減や共感できる仲間との出会いを求める声が高まっています。

不登校児童生徒数は35万人超、12年連続増加

文部科学省の調査※1によると、2024年度の不登校児童生徒数は35万3,970人と過去最多を記録し、12年連続で増加しています。こうした状況を受け、国は「誰一人取り残されない学びの保障」を掲げ、不登校対策を強化していますが、現場では子どもが安心できる居場所づくりが急務となっています。

調査結果：9割以上が「家族以外のつながりは不可欠」

今回の調査では、保護者の91%が「不登校の子どもにとって家族以外とのつながりは大切」と回答。理由としては「悩みを相談できる相手が必要」「家族には話しにくいことも外なら話せる」「自分の居場所を広げることが大事」といった声が目立ちました。

さらに、オンラインで不登校の子ども同士がつながれる場について、半数以上が肯定的な意見を示し、「孤独感がやわらぐ」「外に出られない子でも交流できる」「同じ境遇だからこそ分かり合える」といった期待が寄せられています。

教育メタバース「FAMcampus」が新しい居場所に

こうしたニーズに応えるため、富士ソフトは教育メタバース「FAMcampus」を活用した不登校支援を展開、4年連続で文部科学省の実証事業に採択※2されています。安全性と匿名性を確保しながら、学びや交流ができるオンライン空間を提供、今年度も神奈川県、奈良県、名古屋市、大阪府貝塚市、埼玉県などの不登校支援事業に新たに採択※3されました。富士ソフトは今後も、子どもたちが安心してつながれる新しい居場所を創出し、社会全体で不登校支援を進めていきます。

調査概要

調査期間： 2025年9月1日～9月8日

調査対象： 小学生から高校生の子どもがいる全国の保護者

有効回答数： 132サンプル

調査方法： インターネット調査

詳細は <https://famcampus.jp/column/601/> をご覧ください。



FUJISOFT

※1 令和6年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要

https://www.mext.go.jp/content/20251029-mxt_jidou02-100002753_2_5.pdf

※2 富士ソフト、4年連続で文部科学省の実証事業に採択

<https://www.fsi.co.jp/company/news/20251001.html>

※3 富士ソフトの教育メタバース「FAMcampus」を活用した「不登校支援パッケージ」が神奈川県の不登校支援事業に採択

<https://www.fsi.co.jp/company/news/20250617.html>

富士ソフトの教育メタバース「FAMcampus」が奈良県の不登校支援事業に採択

<https://www.fsi.co.jp/company/news/20250723.html>

名古屋市が富士ソフトの教育メタバース「FAMcampus」を活用した2年目の不登校支援実証事業を開始

<https://www.fsi.co.jp/company/news/20250917.html>

富士ソフトの教育メタバース「FAMcampus」を活用した「不登校支援パッケージ」が大阪府貝塚市の不登校支援事業に採択

<https://www.fsi.co.jp/company/news/20251119.html>

富士ソフトの教育メタバース「FAMcampus」、埼玉県の不登校支援事業に採択され運用開始

<https://www.fsi.co.jp/company/news/20251126.html>

お問い合わせ先

ニュースリリースについて

コーポレートコミュニケーション室 広報窓口

TEL : 050-3000-2735

E-MAIL : mkoho@fsi.co.jp

製品・サービスについて

プロダクト事業本部 みらい教育事業部

FAMcampus 問合窓口

URL : <https://famcampus.jp/>

TEL : 0120-964-529

E-MAIL : famcampus-info@fsi.co.jp

※ 記載している会社名および商品名は、各社の登録商標または商標です。

(別紙)

(別紙)

調査概要「子どもの家族以外のつながりに関するアンケート」

調査期間：2025年9月1日～9月8日

調査機関：株式会社 NEXER

集計対象：小学生から高校生の子どもがいる全国の保護者

有効回答：132サンプル

調査方法：インターネット調査

質問1：あなたの子どもには家族以外に相談できる相手はいますか？

当てはまるものをすべて選んでください。

質問2：不登校の子どもにとって、家族以外の人とつながることは大切だと思いますか？

質問3：そう思う理由を教えてください。

質問4：オンラインによる支援で同じような境遇の人とつながれることを知っていましたか？

質問5：オンラインで不登校の子どもたち同士がつながれる場について、どう思いますか？

質問6：そう思う理由を教えてください。

質問7：どんなオンラインの場があれば参加してみたいと思うか教えてください。

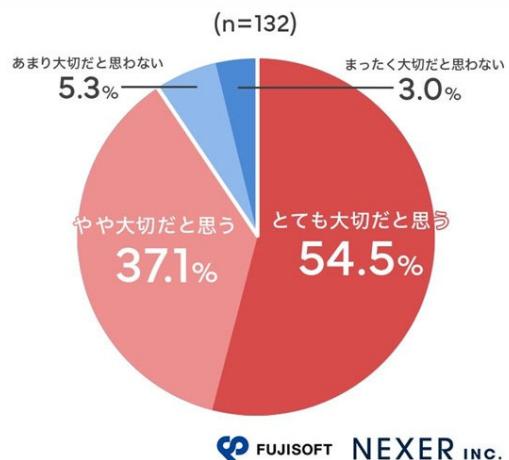
※原則として小数点以下第2位を四捨五入し表記しているため、合計が100%にならない場合があります。

9割以上が、不登校の子どもにとって家族以外とのつながりは「大切だと思う」

まずは、自分の子どもには家族以外に相談できる相手はいるか聞いてみました。



Q. 不登校の子どもにとって、家族以外の人とつながる
ことは大切だと思いますか？



合計で9割以上の方が、「大切だと思う」と回答しています。
それぞれ思う理由を聞きましたので、一部を紹介します。

「とても大切だと思う」回答理由

- ・色々な人に悩みを相談できる。（30代・女性）
- ・家族には話しにくい悩みに向き合ってくれる存在は大切。（30代・女性）
- ・自分の居場所を見つけることが大事だから。（30代・男性）
- ・自分の気持ちを正直に言える所があると安心につながるから。（30代・男性）
- ・学校に行く行かないに関わらず、社会の一員であり誰も見捨てていないことが大事と思う。（40代・女性）
- ・家以外の心の拠り所が出来るから。（40代・男性）
- ・家族以外の人と触れ合うことで自分の世界が広がる（考え方）と思うから。（40代・女性）

「やや大切だと思う」回答理由

- ・孤立しない方が良いと思うので。（20代・女性）
- ・家族以外の人と関わることで、異なる価値観や考え方で触れることができるから。（30代・男性）
- ・物事をいろいろな方向から見ることができる。（30代・女性）
- ・家族には言いたくないことも他人なら言えるので、話すことで気持ちが楽になると思うから。（40代・女性）
- ・家族にも言えないことが、他の人には言えるかもしれないから。（40代・男性）

「あまり大切だと思わない」回答理由

- ・本人が頼りたくなるまで、そっとしておいてあげた方が良いのかなと感じました。（40代・女性）

「まったく大切だと思わない」回答理由

- ・基本的に信頼できないから。（30代・男性）

「大切だと思う」と回答した方からは、特に「悩みを相談できる相手が必要」「家族には話しにくいことも外なら話せる」「自分の居場所を広げることが大事」といった声が目立ちます。

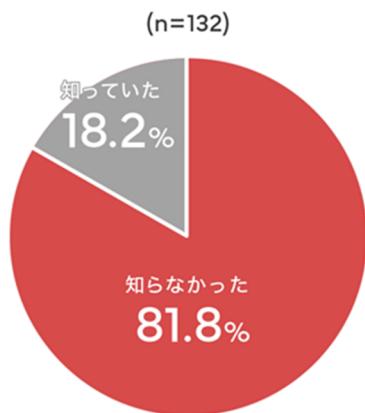
一方で「本人が望むまでは干渉しない方が良い」といった慎重な意見や、「他人は信頼できない」とする考え方もありました。

多様な視点が示すのは、子どもの状況や気持ちに合わせた柔軟な支え方の重要性です。

オンラインで不登校の子どもたち同士がつながれる場について、半数以上が肯定的

続いて、オンラインによる支援で同じような境遇の人とつながれることを知っているか聞いてみました。

Q. オンラインによる支援で同じような境遇の人とつながれることを知っていましたか？

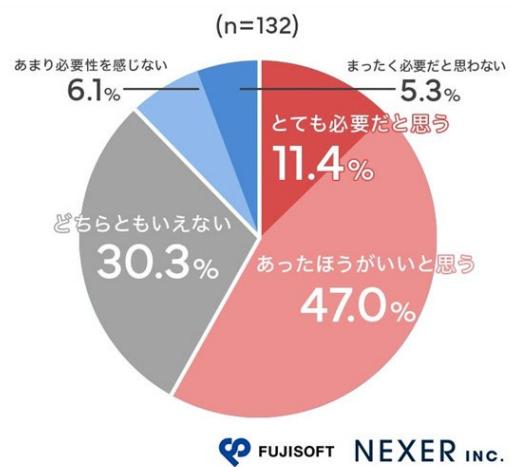


 FUJISOFT NEXER INC.

「オンラインによる支援で同じような境遇の人とつながれることを知らなかった」方が、8割以上いました。

さらにオンラインで不登校の子どもたち同士がつながれる場について、どう思うかを聞いてみました。

Q. オンラインで不登校の子どもたち同士がつながれる場について、どう思いますか？



 FUJISOFT NEXER INC.

半数以上の方が、肯定的な意見を持っているようです。
それぞれそう思う理由を聞きましたので、一部を紹介します。

「とても必要だと思う」回答理由

- ・世界が広がれば、暗い世界から抜け出しができそう。（40代・女性）
- ・お互いの境遇や辛さを共感し、孤独感が無くなるのではないかと思う。（40代・女性）

「あったほうがいいと思う」回答理由

- ・異なる価値観や考え方で触れることができるから。（30代・男性）
- ・少しでも家族以外の人と話すのは大事だと思うので。（40代・女性）

代・女性）

- ・家から出ることもツライ子はいると思うから。（40代・男性）
- ・いろんな理由で出歩けない子もいると思いますし、勇気が出なくて外へ行けない子もいると思うので、話すハードルが低くなるんじゃないかなあと思います。（40代・女性）
- ・同じ境遇の人同士だからこそ、分かりあえることもあると思う。（40代・女性）

「どちらともいえない」回答理由

- ・必ずしもプラスに働くとは思えないが、話す相手ができるのは良いかもしれない。（40代・女性）
- ・繋がりたくなったら是非利用して良いと思いますし、そつとしておいてあげる時間もあげたいなと思いました。（40代・女性）
- ・実際にその立場でないので一概に良し悪しが判断できないから。（40代・女性）
- ・同じ境遇の子を知れるのは良いが解決策につながるかは微妙。（50代・女性）

「あまり必要性を感じない」回答理由

- ・不登校の人がこんなにいるなら大丈夫と余計に行かなくなりそうなイメージがあります。（30代・女性）
- ・強制的に作った関係あまり本音が出ないから。（60代・男性）

「まったく必要だと思わない」回答理由

- ・顔の分からない素性も分からない人間で蹴落とそうとする人がいないとも限らないから。（30代・女性）
- ・インターネットは怖いから。（50代・男性）

肯定的な意見を持っている方からは「孤独感がやわらぐ」「外に出られない子でも交流できる」といった声が目立ち、同じ境遇だからこそ分かり合える安心感への期待が寄せられています。

一方で「インターネットは怖い」「強制的に作った関係あまり本音が出ない」といった慎重な意見や、「余計に行かなくなりそう」との懸念もありました。

利点と課題を踏まえ、子どもの状況に合った形での活用が求められています。

また、最後にどんなオンラインの場があれば参加してみたいと思うかを聞きましたので、一部を紹介します。

どんなオンラインの場があれば参加してみたいと思う？

- ・同じ境遇の子。（30代・女性）
- ・人生落胆してたけど、今は幸せに生きているという経験が聞ける場。（30代・女性）
- ・顔出し、声出しなしOKの安心な場。（30代・男性）
- ・自分の好きな物、事を語れる場所。（30代・男性）
- ・市役所等、公的機関から紹介されたオンラインの場。怪しい集まりに巻き込まれてしまうことがないような、信頼できる場があれば良いと思う。（40代・女性）
- ・複数人で会話できる形の方が参加しやすいという子もいるのではないかでしょうか。（40代・男性）
- ・オンラインで、楽しい実験や英語の学習。（40代・女性）

不登校の子どもが「参加したいと思えるオンラインの場」について、多様な意見が寄せられました。

「同じ境遇の子と安心して話せる場」や「顔出し・声出し不要の気軽さ」を求める声が多く、心理的ハードルの低さが重視されていることが分かります。

また、「趣味や好きなことを語れる場」「楽しい実験や学習ができる場」といった前向きな交流や学びの機会を求める意見も目立ちました。

さらに「公的機関が紹介する信頼できる場」や「複数人での会話形式が安心」との声から、安全性と信頼性も重要な条件であることが浮き彫りになっています。